

2022年3月17日(22日11時解禁)

夢洲の野鳥生息環境の保全について 日本野鳥の会が大阪市長に要望 ～大阪湾岸最大の水鳥飛来地が消滅の危機～

- ・夢洲で大阪・関西万博の建設整備に先行して進められている市の整備工事により、シギやチドリ類、ツクシガモなどのたくさんの水鳥が生息する湿地環境が失われようとしている現状に対し、公益財団法人日本野鳥の会と日本野鳥の会大阪支部が、野鳥の生息環境の保全を求めた要望書を共同で提出。
- ・大阪・関西万博環境評価準備書に対する大阪市長意見(※)と同様の手続きを市の先行工事にも適用すべきと主張。
- ・保全・創出計画が示されるまで、水鳥の生息する湿地に影響を及ぼす工事は実施しないことを要望。
- ・大阪・関西万博の会場整備計画にある「ウォーターワールド」は、人工的な構造物による水辺整備ではなく、湿地や草地など水鳥の生息環境を可能な限り残したものに変更することを要望。

公益財団法人日本野鳥の会(理事長:遠藤 孝一)と日本野鳥の会大阪支部(支部長:松岡三紀夫)は、大阪市の夢洲(ゆめしま)で計画されている2025年日本国際博覧会の建設整備が進むことに対して、大阪市長に要望書を3月16日に提出した。万博事業者に対する市長意見を市の先行工事にも適用し、保全・創出計画が示されるまで、水鳥の生息する湿地に影響を与える工事を実施しないこと、湿地や草地など水鳥の生息環境を可能な限り残した整備計画への変更を求めている。

添付資料 夢洲の野鳥生息環境の保全について(要望)

【参考情報】

※2025年日本国際博覧会環境影響評価準備書に関する市長意見(令和4年2月9日) 抜粋

<https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/0000556173.html>

〔動物・生態系〕

夢洲では多様な鳥類が確認されていることから、専門家等の意見を聴取しながら、工事着手までにこれら鳥類の生息・生育環境に配慮した整備内容やスケジュール等のロードマップを作成し、湿地や草地、砂れき地等の多様な環境を保全・創出すること。

【関連する要望書等について】

3月11日 (公社)大阪自然環境保全協会 提出

3月16日 (公財)日本自然保護協会・(公財)世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)・(公財)日本野鳥の会が連名で提出(←3月17日プレスリリース)

■本件に関するお問い合わせ

日本野鳥の会大阪支部 松岡三紀夫 Tel:090-2389-2743 荒木涼子 Tel:090-9098-1195